



学校だより

狛江で育ち狛江一中で学んだことを
生涯の誇りにできる生徒の育成
5月号 令和5年5月1日

狛江市立 狛江第一中学校

狛江市和泉本町 2-15-1
TEL 03 (3480) 0121

「エビングハウスの忘却曲線」というお話

校長 吉田 知弘

新緑が美しい季節となりました。

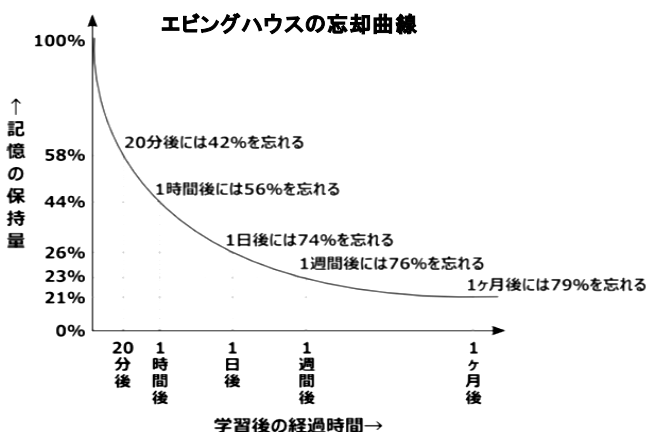
4月17日(月)から22日(土)までの学校公開週間と22日(土)に行われた評価説明会・部活動保護者会には、多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。生徒たちがちょっと緊張しながらも一生懸命授業や運動などに取り組む姿を見ていただけたことと思います。コロナ対応が完全に解除されたわけではありませんが、このように生徒たちの学校での様子、頑張る姿を見ていただく機会がもてたことを嬉しく思っています。

さて早いもので今年度も1か月が経ちました。新しい学年になり、生徒たちは「勉強を頑張ろう」「いい仲間を作ろう」など、それぞれが新しい自分の目標と役割を見出し、学校生活をより良いものにしようと各活動に励んでいます。特に中学生となった1年生にとっては毎日が「初めて」の連続で、緊張した生活が続いてたいへんだったと思いますが、最近では笑顔も見られ、うち解けた雰囲気です学校生活を送っている姿が多くなってきました。

今月は生徒総会や中間考査があり、また体育祭に向けた練習・準備がスタートするなど、生徒一人一人が個人として、あるいは集団として力を発揮する機会がたくさんあります。一人一人が全力を尽くし、自らの成長を実感できるよう頑張ってください。

さて表題の「エビングハウスの忘却曲線」とは、「例えば、規則性のないアルファベットの羅列や意味を持たない音節などを覚えた被験者がどのくらいの時間後にどの程度それを覚えて（あるいは忘れて）いるか」ということを表したもので、それが左下のグラフになります。実際の実験はとても複雑で、覚えている量を単純に表せるものではないようですが、一般的にはこのグラフから「人間の記憶は時間が経つほど忘れてしまうもの」と言われています。例えば「覚えてから1日後は26%しか覚えていない」という結果ですが、逆から言うと「せっかく覚えても明日には74%も忘れてしまう」ということになります。学習したことを知識として定着させ、記憶していくためには、学習してからなるべく早い時期に「復習する」「繰り返す」ことが大切なのだという説明によく用いられるものです。もちろん、この実験のように覚える内容が意味のないアルファベットの羅列や音節ではなく、自分が興味をもって取り組んだ内容(学習)であれば、この忘却曲線はもっと緩やかになり、自らの知識としてもより定着できるだろうということは想像できます。

ゴールデンウィークをはさみ、2週間後には今年度最初の定期考査である1学期中間試験があります。1年生にとっては中学校に入ってから初めての大きな試験であり、その勉強方法に戸惑うこともあるかもしれません。また2・3年生にとっては、試験範囲にそれぞれ1・2年生の3学期に勉強した内容も入るとすれば、それはかなり広いものになるはずですが、授業中に勉強しただけの1回きりでは忘れてしまうのが私たち人間です。「早め早めの準備」と「繰り返しの復習」を意識して、勉強面でも良い1年のスタートを切ってください。



この春、狛江一中を離任された方々からのメッセージです。去られた方々のますますのご活躍をお祈りしています。

【齋藤 拓真 先生】

狛江一中では3年間、生徒の皆さんと学校生活を共にしました。感染症拡大に伴う臨時休校、そして分散登校から始まり、これまでに誰も経験したことのない状況の中、その時々で様々な思い出を作ることができました。徐々に学校行事も通常版に戻っていき、それも相まって、昨年度は特に私の教員人生に残るかけがえのない時間となりました。久しぶりの1年生の担任ということもあり、気を引き締めて臨んだ入学式。桜は幾分散っていましたが、それ以上に上級生が新入生を祝っていたこと、あたたかな雰囲気でも新入生を迎え入れてくれたことが、とても素敵だと思い、狛江一中の良さを再確認しました。居心地の良い空間だったので異動することに後ろ髪がひかれる思いでしたが、新天地でも、狛江一中の生徒のような、どんな状況でも人に優しくできる元気な生徒の育成を目指し、頑張っていこうと思います。新3年生、新2年生の皆さんも頑張ってください。保護者や地域の皆様、ご理解ご協力いただき本当にありがとうございました。

【北島 直翔 先生】

大変お世話になりました。本当に幸せな6年間を過ごさせていただき、皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。生徒のみんな、卒業生、保護者の方々、先生方、本当にありがとうございました。

教員になって初めての学校で、たくさん失敗もしましたし、うまくいかないこともありました。しかし、どんなときでも狛江一中の生徒は話をよく聞いてくれて、一生懸命に授業を受けてくれて、そんな姿にいつも支えられていました。また、休み時間にたわいもない話をしたり、行事で一緒になって盛り上がり、学校生活を生徒のみんなと過ごすことができるとても楽しかったです。狛江一中を離れるのは寂しいですが、狛江一中で学んだことを生かして次の学校でも頑張っていきたいと思っています。これからも皆さんの成長と活躍を願って応援しています。ありがとうございました。

【中野 光洋 先生】

3年間、大変お世話になりました。3年前の入学式、青空の下で新入生と共に狛江第一中学校での日々がスタートしたことを今でも昨日のことにように思い出します。コロナ禍という新たな環境の中での狛江第一中学校で過ごした時間は私にとって多くの学びを得ることができたものでした。少しずつ以前の学校生活に戻ってきてはいますが、まだまだ生徒の皆さんには制限のついた日常が続くと思います。ですが、そのような中でも授業で難しい顔を浮かべ、休憩時には友達と笑い、部活動に真剣に取り組む日々は間違いなく皆さんにとっての青春です。全力でこの4月からの学校生活も楽しみ、そして大いに学んでください。

最後に保護者・地域の皆様、日頃より狛江第一中学校の生徒を応援していただきありがとうございます。生徒たちを取り巻く環境は日々変化しておりますが、その中で一生懸命頑張る生徒たちをこれからもよろしく願っています。

【丸田 昭男 先生】

4月から、四中で働いています。実は先生は、40年前の昭和59年から6年間四中で理科の先生をしていたので、四中には「来た」という感じよりも「帰ってきた」という感じがします。四中の生徒の皆さんも一中の皆さんと同じように、しっかりとあいさつができるし、学習や部活動にも熱心に取り組んでいます。生徒会活動も「友情と自主」をテーマに大変盛んです。生徒会のシンボル「八郎」の壁画は四中にもあります。四中が一中から分かれて開校したときに、両校に分かれた生徒たちが、八郎の精神を通じて絆を残そうとしたそうです。

一中を去っても、このように素敵な四中に来られたことは幸せだと思っています。でも、やっぱり、私の中ではまだ一中が最高です。一中から四中がよく見えるように、こちらからも一中がよく見えます。夕焼けが一中を照らす時刻になると、一中に戻りたくなくて仕方がなくなります。でも、物事は振り返ることも大切（人は歴史に学ぶ）ですが、前を見ることは、もっと大切だと思って、ここ四中でできることを頑張ってみます。

【吉田 恵美子 さん】

事務職員として5年間勤務させていただきました。生徒のみなさんとは、直接かかわることはあまりなかったのですが、廊下などでみなさんの方からあいさつをしてくれたり、毎日楽しそうに学校生活を送っている様子や、部活動や学校行事などを一生懸命にがんばる姿にいつも元気をもらっていました。

これからも中学校生活を楽しんでください！ありがとうございました。

【梅田 まや さん】

短い間でしたが、ありがとうございました。1組のみなさんとは、休み時間におにごっこをしたりおしゃべりをしたりするのがとても楽しかったです。いつも元気をもらっていました。一中のみなさんは、自分たちでいろんなことを考えて、行動しているのが素晴らしいと思います。これからも、みなさんの活躍をお祈りしています。

本物

一日校長先生として宮城野親方（元白鵬関）が来校

第2学年 栗城 隆司

4月21日（金）の5・6校時に、一日校長先生として第69代横綱の白鵬翔さんがお弟子さん二人と共に来校しました。お弟子さんの実演と親方のお話の二部構成で行われました。実演ではお弟子さん同士のぶつかる激しい振動と大きな音に本物を感じることができました。また、教員、生徒とお弟子さんによる取り組みをするサプライズな演出もあり生徒たちも盛り上がりしました。

宮城野親方からの話では「海外から来日して細身の自分が努力して身体づくりをしたこと」「いろいろな人との出会いが自分を成長させたこと」などご自身の経験から深みのあるお話を聞かせていただきました。また、親方が努力の末に横綱となったときのお話のなかで、「夢がかなったことで目標を失った。新たな夢や目標を持つことで連勝を続けることができた。」というお話をいただき、夢や目標を持ち続けることの大切さを伝えていただきました。短い時間でしたが充実した時間を過ごすことができました。